

おくすりQ&A

自宅で使用できる注射薬について

Q. 調剤薬局で注射薬の取り扱いがありますか？

A. 調剤薬局では、患者さんが自宅で使用できる注射薬を取り扱うことができます。具体的な注射薬は厚生労働大臣が定めており、**全部で約50種類**あります。最も代表的な注射薬としては、血糖値を下げたための**インスリン製剤**が挙げられます。また、**中心静脈栄養法用輸液**や**塩酸モルヒネ製剤**など、特殊な注射薬を取り扱うこともできます。



Q. 中心静脈栄養法用輸液とは何ですか？

A. 中心静脈栄養法用輸液は、「**高カロリー輸液**」とも呼ばれています。高カロリー輸液とは、食事の代わりとして栄養を補給するための点滴薬のことです。大きな手術の後や腸閉塞、何らかの原因で腸が短くなってしまった短腸症の方など、長期間食事ができない人や、食事をしても栄養を吸収できない人に対して使用されることがあります。

Q. 塩酸モルヒネ製剤はどのようなときに使われるのですか？

A. 塩酸モルヒネ製剤は、**癌などによる強い痛みを抑えるために使用されます**。塩酸モルヒネ製剤は医療用麻薬に指定されているため、使用にあたっては厳しい管理が必要です。調剤薬局が患者さんにお渡しする際には、患者さんが薬を取り出せない構造で、薬の投与速度が変更できないような状態にしなくてはなりません。

自宅で使用できる注射薬は少しずつ増えています。以前は入院による治療・療養しかできなかった病気も、通院で対応できるケースが出てきました。また、医師や薬剤師、看護師などが患者さんの自宅を訪問する在宅医療が国により推進されていて、患者さんの自宅で注射薬が使われる機会も増えています。最近では在宅医療の普及に伴い、治療・療養の場所として、「自宅」の位置づけが見直されています。

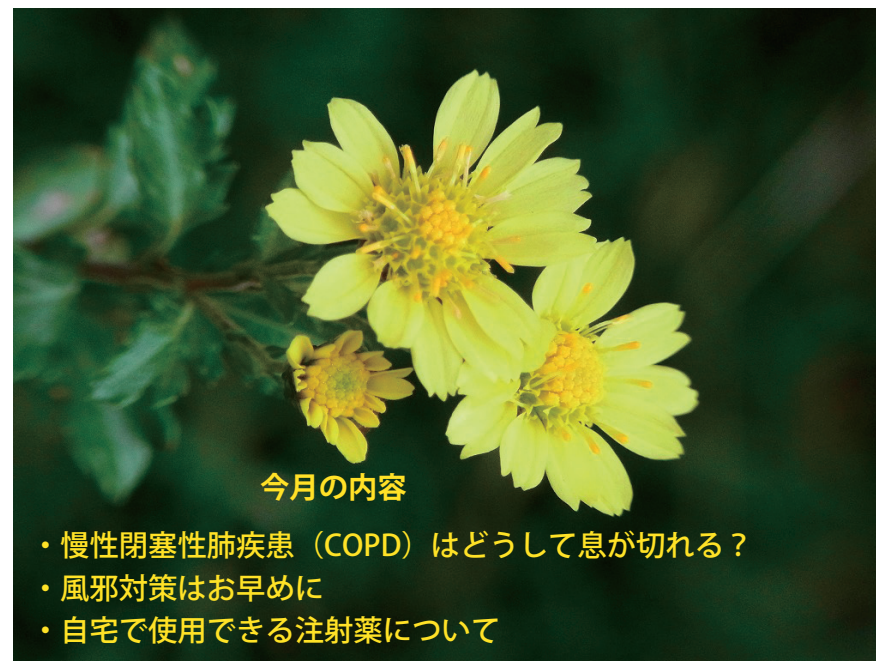
おわりに

自己注射のために使用した注射器や注射針を廃棄する際には注意が必要です。廃棄方法は使用する注射薬によって異なります。処方元の医療機関や薬を受け取った調剤薬局で廃棄方法を必ず確認するようにしてください。

執筆薬剤師 添石 遼平

わたしの健康とくすり

第214号



今月の内容

- ・慢性閉塞性肺疾患（COPD）はどうして息が切れる？
- ・風邪対策はお早めに
- ・自宅で使用できる注射薬について

シマカンギク（キク科）

近畿地方以西の暖地に見られる多年草で、日当たりのよい山麓に生育しています。頭花は黄色で、径は 2.5cm ほどで小型ながら、多数咲くので綺麗です。10～12月に開花するので、寒菊の名があります。また、頭花を油に浸けて傷薬にしたので、アブラギクの名もあります。頭花はまた菊花（キッカ）の名で薬にします。のぼせや目に良いとされています。

写真・文 指田 豊

2013年11月発行

発行者 八王子薬剤センター 茂木 徹

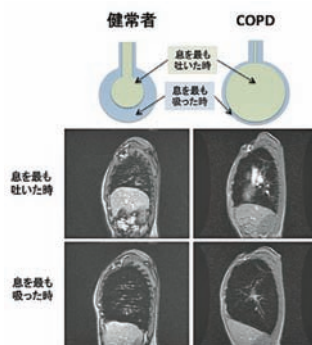
東京都八王子市館町 1097 電話 042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

COPDはどうして息が切れる？

COPDの症状には咳や喀痰がありますが、特につらいのは日常生活での息切れです。前回説明したように、日本人のCOPD患者の多くが肺気腫タイプです。今回は肺気腫の息切れの原因について説明しましょう。

肺気腫は、最初に細い気管支に炎症が起こり、続いてこの炎症が酸素を体内に取り入れる肺胞まで広がります。その結果、**細い気管支の壁が厚くなって空気の通り道が細くなり、また肺胞の壁が破壊されて拡大します**。肺胞は、息を吸った時も吐いた時も、膨らませた風船のように縮まろうとします（**肺弾性収縮力**）が、肺気腫患者の肺胞は縮まる力が大変小さいため、**健康な人より肺が大きくなります**。そのため、重症な肺気腫患者の胸は、“**びん樽状**”と呼ばれています。



安静にしている時は、ゆっくりとした呼吸でも必要な酸素を取り入れることができますが、歩行時や階段を上る時は、安静時より多くの酸素が必要となるために、速くて大きな呼吸になります。速い呼吸をするためには、肺の中の空気を速く吐き出さなければなりません。肺気腫の患者は気道が細く、肺胞の肺弾性収縮力が小さいため、**肺の中の空気を吐ききれずに残ってしまい、ますます肺が大きくなります**（**動的肺過膨張**）。そのため、吸える空気の量が制限されて、必要な酸素を取り入れることができなくなります。例えるなら、少ししか水が入っていないコップにはたくさんの水が入りますが、水がたくさん入っているコップには少ししか入らないようなことです。

また、呼吸は頸部や胸、お腹の筋肉を使って胸を大きくしたり小さくしたりして、空気を吸ったり吐いたりしています。肺気腫の患者は、**健康な人より必要な酸素を取り入れるためには呼吸筋を一生懸命に動かさなければならず**、すぐに疲れて息が切れてしまいます。息を吸って肺に多く空気を残した状態で呼吸をすれば、肺気腫患者の息切れを実感してもらえそうです。

★次回 (2014年1月号) は、COPDの原因などについて解説します。

東京医科大学 八王子医療センター 呼吸器内科 一和多 俊男

ちょっとお耳を……

風邪対策はお早めに

過ごしやすかった秋も終わり、冬本番が近づいてきました。食欲の秋、運動の秋、読書の秋、スポーツの秋などさまざまな行事を行いやすい秋でしたが、その裏では外気が乾燥してきています。本格的に外気が乾燥する冬に向けて、風邪対策を習慣づけておきましょう。



風邪やインフルエンザは、空気が乾燥する季節に流行します。それは、**ウイルスの侵入を防ぐ働きをするのどや鼻が乾燥し、ウイルスを排除するはたらきが弱まってしまうため**です。

それでは、実際にどのような対策をすれば良いのかをご紹介します。

①うがい・手洗い

うがい・手洗いは風邪予防の基本です。のどや手に付着したウイルスを物理的に除去するため、風邪を予防する上で非常に効果的です。**うがいは3回に分けるのが効果的**と言われています。1回目は口の中の食べかすを取り除くため、上を向かずにクチュクチュとゆすぎます。2回目は上を向いて、喉の奥まで届くようガラガラと15秒程度します。3回目は2回目と同じ動作をします。また、手洗いは**時間をかけて指の間や手の甲、手首までしっかり洗う**と効果的です。

②適温

風邪の予防に適した室温は18～20℃と言われています。**風邪のウイルスの多くは気温15～18℃以下の環境を好んで活発に活動を始めるため、それより高く室温を保つことが大切です**。ウイルスにとっての適温にならないよう気をつけましょう。

③適湿

湿度が40%以下になるとウイルスの水分が蒸発して軽くなるため、**落下速度がゆるやかになり、約30分間空気中を漂うことが知られています**。空気中のウイルスは人が息を吸い込むときにのどや鼻に付着して感染すると考えられています。そのため、**湿度は50%以上を保つよう心掛けましょう**。

④睡眠

睡眠不足によって疲れやストレスがたまると、体力が落ちて風邪を引きやすくなります。**十分な睡眠をとり、翌日に疲れを残さないことが大切です**。

風邪対策は流行り始めてから行うのではなく、毎日の生活の中で習慣づけていくことが大切です。今のうちにできることから始めてみてはいかがでしょうか。

執筆薬剤師 棕澤 慎太郎